

発寒ひかり 保育園だより

2020年
8月号

巻頭言

『自分は無症状だけど感染している』という意識で行動してください。どうかお願いします」これは、沖縄で救急医師をされている中山由紀子さんが、TV東京の「コロナに思う」に寄せたメッセージです。「医師、妻、母、妊婦」などとして多様な方々とかかわっています。感染を広げないために、「今は移動をしないで」と訴えています。当園では、先生たちが、新型コロナウイルスとその対策についての紙芝居を創りました。子どもたちは、早速「紙芝居で言っていたよね」と、実践しています。

ある専門家によると、このコロナ禍の背景には、動物の分布に変化をもたらした地球温暖化等の環境変化があるとのこと。当園では、ここ数年、北海道森と緑の会さんなどのご協力を得て、イベントに参加したり、50周年の記念植樹をしたりと学びと実践を続けています。これらは、当園の保育の特色の一つである「いのち・環境・平和育」と深く関わっています。

さて、8月は、6日ヒロシマ、9日ナガサキ、15日終戦記念日と私たち日本人にとって「非戦、平和」を誓う月です。さらに忘れてならないのが、6月23日の沖縄「慰霊の日」です。そしてその一年前、沢山の子どもたちが犠牲になった事件が起きました。

国は、本土防衛のための沖縄決戦に備え、足手まといになる子ども・高齢者の疎開命令を下しました。1944（昭和19）年8月22日、九州に向かっていた対馬丸はアメリカの潜水艦に撃沈され、約800人の子どもたちが犠牲となりました。沖縄戦では、日米約20万人、軍人よりも一般住民の犠牲がはるかに多く、県民の四人に一人が戦死しました。

戦後75年、沖縄の人々の悲しみは深く、今なお基地問題（日本の米軍基地の約70%が集中）で苦しみ続けています。

園長 吉田 行男

沖縄 癒やされぬ75年 慰霊の日追悼式

あなたのおかげで

私は今 ここにいます

*切り取り
していいよ)

平和の詩 高良朱香音さん(17)



沖縄全戦没者追悼式で読み上げられる「平和の詩」。戦後75年の今年、県内の小中高校生ら計119作品から選ばれたのは、沖縄県立首里高校3年の高良朱香音さん(17)の詩「あなたがあの時」だ。

「懐中電灯を消してください」／一つ、また一つ光が消えていく

詩は、2年前に平和学習で経験した、壕の中で情景から始まる。

る。

「真つ暗になったその場所は、まだ昼間だというのに／あまりにも暗い／少し湿った空気を感ずながら／私はあの時を想像する」

沖縄戦のとき、祖父母は疎開して助かった。体験者の話を聞くようになったのは、小学校の授業などから。そのたびに「自分がその場にいたらどう感じたか」を考へてきた。

「あなたが青春を奪われたあの時／あなたはもうポロポロ／家族もいない 食べ物もない／ただ真つ暗なこの壕の中で／あなたの見た光は、幻となって消えた。」

詩を書くにあたって意識したのは、今を生きる自分が沖縄戦を目撃したとき、一番伝えたかったことは、感謝の気持ち。

撃したとして、そのときに、これまでつらい戦争体験を語ってきた人たちに何をどう伝えたいかという視点だ。

「あなたが声を上げて泣かなかつたあの時／あなたの母はあなたを殺さずに済んだ／あなたは生き延びた」

「あなたが少女に白旗を持たせたあの時／彼女は真つ直ぐに旗を掲げた／少女は助かった」

「あなたがあの時／あの人を助けてくれたおかげで／私は今ここにいます」

詩の中で繰り返される「あなた」は、これまで高良さんが直接聞いたり、本で読んだりした体験者を重ねた。その姿を思い浮かべたときに一番伝えたかったことは、感謝の気持ち。

「あなたがあの時／勇気を振り絞って語ってくれたおかげで／私たちは、知った／永遠に解かれることのない戦争の呪いを／決して失われてはいけぬ平和の尊さを」

〈ありがとう〉

普段、友人同士で沖縄戦を話題にすることはほとんどない。追悼式での朗読が決まったとき、気恥ずかしさを感じて断ろうかと迷った。それでも、「わたしが発信すれば、同世代もちょっとは戦争や平和について話しやすくなるかな」と、引き受けた。

「頭、気をつけてね」／外の光が私を包む／真つ暗闇のあの時／あなたが見つけた希望の光／私は消さない 消させない

「あなたがあの時／私を見つめたまっすぐな視線／未来に向けた穏やかな横顔を／私は忘れない／平和を求めぬ仲間として」

高良さんは、沖縄戦を生き延びた人たちが「子や孫に同じ思いをしてほしくない」と口にする気持ちを、「すい／優しい願い」と受け止め、その思いを受け継ぐ決意を詩に込めた。そして、こうも話す。「命を守り生き残ってくれて、今の私や沖縄がある。私が詩を詠むことで、体験者の気持ちが少しでも癒やされたいいな」

(国吉美香)



同級生の顔浮



ばを影